



西田ゆずる県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

負債をゼロにすることが財政再建ではない!!!

21年度県一般会計当初予算案を審議

2月県議会 予算委員会特集

県議会の中でも、二十三歳と最も若い八千代市選出の西田譲(ゆずる)県議は、二月県議会の予算委員会で質問に立ち、県政運営の基本である財政問題に絞って、県執行部に堂々と論戦を挑みました。一期生ながら、政策通として次第に評価を高めている西田県議は、慢性的な財源不足に陥っている県財政の現状を、地方財政制度の構造的な欠陥によるところが大きいとし、真の地方分権のためには、正面から国と対峙すべきだと主張しました。

また、財源不足が続く中でも、県民生活を保証する行政サービスの水準を維持するためには、財政再建を履き違えることなく県政運営に臨まなければ、社会不安はますます増大し、未来への希望を見出すことができないなどと持論を展開しました。予算委員会での西田県議の質疑を1、2面で特集します。



財政問題で議論を交わす西田ゆずる県議

西田県議 財政の役割を果たせ

西田委員 財政を健全に運営するということは、資産をきちんと二元管理して、負債とのバランスを含め、ストック面でも中長期的な戦略を持つことではないか。

総務部長 県全体の資産及び負債については、先ほど申し上げたバランスシートで、その状況を把握しているところです。

また、中長期的な観点からの財政運営については、実質公債費比率ですとか将来負担比率など、財政健全化法の施行により導入された指標などを活用し、その健全性の確保に努めております。

今後、資産・負債の全体状況及び各種財政指標の経年変化や類似団体との比較などを通じて、的確な財政運営に努めてまいりたいと考えております。

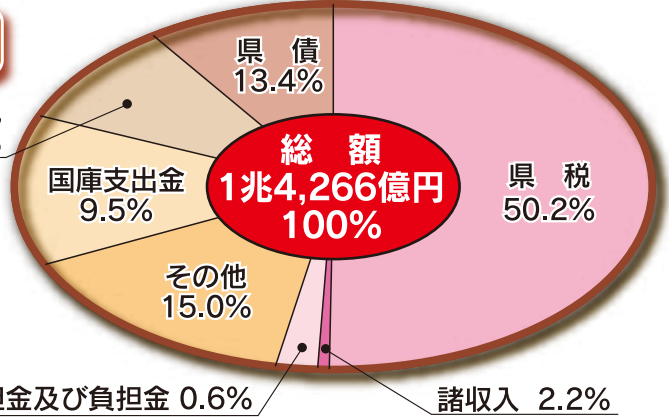
西田委員 さまざまな指標も財政健全化法がある以上大

事ですが、その指標に縛られすぎて、結果として数字の辻褄があつたとしても、社会が直面する危機が解消されなければ何の意味もありませんし、財政再建のためについて、県民の生活を犠牲にするような悲劇を起こしてはなりません。

持続可能な財政運営のためにとプライマリーバランスの黒字に闇雲にこだわってみたい、シーリングによる機械的、画一的な予算削減をしてみたりといったことよりも、県民がその時代に本当に必要としている行政サービスをどう構築し、提供していくかといったことが、本当の県政の目的であり、結果、経済が安定し社会から不安を取り除くことが、財政上のコストを削減することになるはずで、それが、本当の財政再建という結果をもたらすことになるのではないのでしょうか。

歳入

地方交付税 9.1%



西田ゆずる県議プロフィール

■ 略 歴 ■
昭和50年生まれ。八千代市大和田新田在住。熊本高校卒。慶應義塾大学経済学部中退。衆議院議員公設秘書、政党役員を経て、平成19年4月千葉県議会議員選挙に当選。

■ 現 職 ■

- 千葉県議会議員
- 千葉県議会総合企画水道常任委員
- 自民党千葉県連常任総務
- 自民党千葉県連青年局長常任幹事
- 自民党千葉県連政務調査会環境生活部会副部長
- 自民党千葉県議会議員会介護問題議員研究会事務局長
- 八千代市青年会議所会員
- 八千代市消防団第二分団員
- 八千代市体育協会顧問
- ゆめ半島千葉国体八千代市実行委員会顧問

*このほか観光立県推進議員連盟、首都圏中央連絡道推進議員連盟、幼児教育研究議員連盟、農政問題議員研究会、医療問題議員研究会顧問(幹事)、芸術文化振興議員連盟、保育所問題議員研究会(世話人)などの団体に所属。

● 県政報告会を随時開催中!! お問い合わせは↓

〒276-0042 八千代市ゆりのき台 4-7-7 飯田第8ビル3階
西田ゆずる 県議事務所 TEL.047-486-4680

新知事は国と本気で対峙せよ

三位一体改革が圧迫要因

西田委員 行財政改革による歳出削減や歳入確保に県がいくら頑張っても、予算編成段階から財源不足による赤字での編成を余儀なくされ、県債発行での穴埋めも見通しが無い状況が続くことは、もはや、地方財政が制度上成り立たないことを表しているように思うが、どうか。

総務部長 現在、県の財政状況が極めて厳しい要因は、社会保障費をはじめとする義務的経費が増え続ける一方、国の三位一体改革により地方交付税が大幅に削減されるなど、必要な一般財源が確保されないことによるものである。このため、

県としては行財政改革を推進するとともに、国に対して地方交付税総額の復元や、地方消費税の充実を含む安定的な地方税体系の構築について、強く働きかけているところです。

西田委員 今おっしゃった三位一体改革ですが、中身は本来、中央集権から地方分権への転換を図る大きな一歩でなければならなかったものが、実際は、国の負担

県は2兆7千億円の資産超過

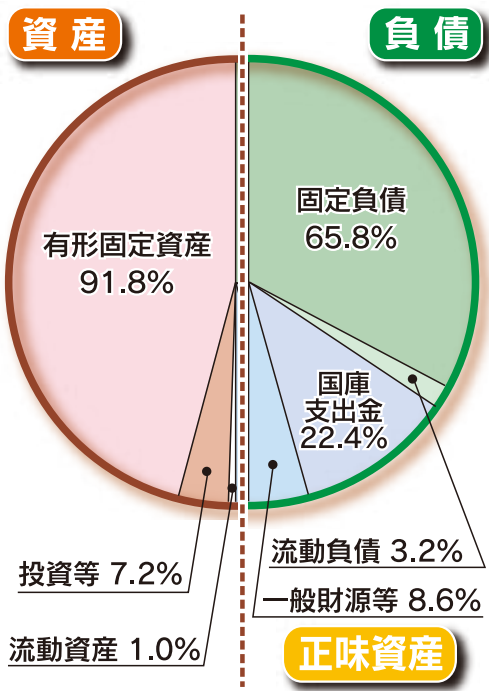
西田委員 議会でも、よく借金に頼ってばかりで、借しからんとか、わが県も県民一人当たり四十数万円の借金、総額三兆円弱の県債残高がある。将来の世代に多大な負担を残しているといった

総務部長 平成十九年度末における公営企業を含めたバランスシートでは、総資産額は六兆四千九百九十六億円で、その主な内容は、道路・公園・学校等の土地や建物等の有形固定資産が五兆八千八百八十五億円、



予算委員会で県執行部に質問する西田県議

19年度バランスシート



意見をよく耳にしますが、負債があるということは、それによって形成された資産があるわけです。

西田委員 県全体の現状の資産と負債のバランスについて、どう考えているのか。また、今後の見通しはどうか。

総務部長 十九年度末における公営企業等を含めたバランスシートにおいて、資産総額が六兆四千九百九十六億円であり、これに對

軽減と財政再建のつけを地方に回すことになり、おおよそ地方分権の名に値しないものであります。この点こそが、まさしく今日の県政を、財源不足で予算が組めないという情けない状況に追い込んでしまったわけですね。

新しく誕生する知事には、こういう地方財政の現状をご認識いただき、地方分権のために国とも対峙できる方であってほしいと思います。

し負債総額は三兆七千四百二十八億円と、資産が二兆七千五百六十八億円多い状況です。

近年、投資的経費を抑制していることなどから、資産は減少傾向にあり、今後この傾向は続くと考えています。

西田委員 資産の減少が続く中で、いざれ県が債務超過に陥る事態が想定されるのかどうか。

総務部長 資産は減少傾向にありますが、建設地方債等の残高が確実に減少してきていることや、発行が増加している臨時財政対策債についても、地方交付税で措置されるものと考えていることから、現時点で債務超過は想定していません。

バンコク都と友好都市へ

タイ王国の首都・バンコク都と長年にわたって「こども親善大使」の派遣・受け入れを通じて交流を続けてきた八千代市は、昨年五月、バンコク都と友好都市の提携協定を結びました。

これに伴い、西田ゆずる県議は、今年一月二十一日から四日間、平成二十年度の「こども親善大使」と一緒にバンコク都を訪問して、スクムパン都知事らと交流しました。

今回の友好都市提携は、八千代市とバンコク都の交流が二十



スクムパン都知事と交流する西田県議

2月県議会 予算委員会 挑戦こそ進歩!

西田ゆずる県議